

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：共通教育科

資格：講師

氏名：寺井 朋子

| | |
|------------------|---------------------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 道徳性の発達、学校適応 | 道徳性、規範意識、直感、小中学校 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士（臨床教育学）、修士（学術） | 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 博士課程 満期退学 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------|-----|----|
| 事項 | 年月日 | 概要 |

| | | |
|---------------------------|----------|--|
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 多人数でのモラルジレンマ課題を用いた授業実践 | 2012年2月～ | <p>これまで、特別学期の「体験！モラルジレンマ」授業において、さまざまなジレンマ課題を提示して受講生の賛否や意見を聞いてきた。高校生、大学生、保護者、社会人などの年齢の幅が広い受講生がそれぞれの意見を言いやすい雰囲気にするため、赤色と緑色の3×10cm程度の紙を1人1枚ずつ用意し、それを上にあげることで、意思表示とした。5人を助けるために1人を犠牲にするというトローリジレンマなど、答えのないさまざまなジレンマ課題に対して、色用紙を用いて回答を求め、双方向の授業を展開した（赤色が被許容、緑色が許容など）。</p> <p>色用紙を使うことで、教員側は賛否の理由を聞く相手をすぐに見つけられる利点があった。また、受講生同士もキョロキョロしながら、自分の意見と異なる人が存在することを実感でき、好評であった。</p> |
| 2. 教職課程の授業における採用試験問題の体験 | 2011年前期 | <p>教職課程「教育心理学」の受講生を対象に、教員採用試験の過去問から抜粋した小テストを複数回実施した。これは、授業の到達度確認の意味もあったが、本授業は複数の学科から主に1年生が受講するため教員採用試験のイメージを早い時期に伝えるという目的でもあった。</p> |

| | | |
|---------------------|--------------|--|
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. 新・プリマーズ 保育の心理学 | 2013年4月10日刊行 | 編著 河合優年・中野茂 の中で、第7章（社会性の発達）と第9章（対人関係の成り立ちと道徳性）を担当した。 |

| | | |
|------------------------------|-----------------|---|
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 神戸市立小学校のスクールサポーター | 2005年9月～2010年3月 | <p>1年生～6年生及び支援学級の授業に入り、担任の先生との連携をとりながらサポートした。主に発達障害や肢体不自由の子どもたち等への関わりが仕事内容ではあったが、ほとんどの学級ではクラス全員に関わった。算数・国語・体育の時間に関わることが多かったが、音楽・プールなどでもサポートした。また、遠足などの多くの校外活動やスキー合宿へも同行した。</p> <p>担任の先生によって指導法や考え方が異なることもあり、その場に合わせた柔軟な姿勢でクラスの生徒に関わることの必要性や、教員同士の連携の重要性を学んだ。また、進行性の病気を持つ子どもと話をしたり、学級崩壊現場の困難さを見るなど、数多くの経験をさせてもらった。</p> |

| | | |
|--------------|--|--|
| 4 その他 | | |
| | | |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|--------------|-----|----|
| 事項 | 年月日 | 概要 |

| | | |
|-----------------------|-----------------------|--|
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 学校心理士 | 2013年1月1日～2017年12月31日 | |
| 2. 日本心理学諸学会連合 心理学検定1級 | 2009年10月 | |
| 3. 日本心理学会認定心理士 | 2002年04月 | |
| 4. レクリエーション・インストラクター | 2002年04月 | |
| 5. 図書館司書 | 2002年03月 | |
| 6. 社会教育主事任用資格 | 2002年03月 | |

| | | |
|--------------|--|--|
| 2 特許等 | | |
| | | |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| | | |

| | | |
|--|-------------|--|
| 4 その他 | | |
| 1. 一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構「倫理研修会（全国研修会）」講師 | 2016年07月17日 | 臨床発達心理士認定運営機構倫理委員会による2016年度第1回「臨床発達心理士としての倫理研修会」（13:30-16:30）において、講師として講義とグループワークを行った。 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|----------------------------------|---------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| 2. 第2回「能動的学修の教員研修リーダー講座」事例紹介 講師 | 2015年08月29日 | た。 全国大学実務教育協会主催の第2回リーダー講座において、講師として実践事例を発表した。 |
| 3. 「教育改善・改革プラン」の提案採択 | 2015年08月21日採択 | 武庫川女子大学「教育改善・改革プラン」の提案募集において、「CA制度を導入した能動的学修と授業改善」が採択された。 |
| 4. 平成27年度 新任教員FD研修会 講師 | 2015年07月25日開催 | 武庫川女子大学FD推進委員会主催の新任研修会にて、講師を担当した。13：35～15：05の前半の1時間半では、「能動的学修」に関する話題提供を行った。15：15～16：45の後半の1時間半では、前期授業に関するグループワークを行い、「授業に関するさまざまな問題」について各班で意見をまとめて頂いた。 |
| 5. 日本発達心理学会 第74号ニューズレター | 2015年02月28日発行 | 「いま、研究倫理を問いなおす」という特集号において、「マニュアルの限界—倫理規定に書かれている事項を超えて—」と題して執筆した。ここでは、単に定められたルールを守るだけでは倫理的であるとは言えず、研究者の倫理的感覚の涵養が大切ではないかと論じた。 |
| 6. FD「能動的学修の教員研修リーダー講座に関する勉強会」講師 | 2015年02月20日開催 | 武庫川女子大学FD推進委員会主催の「能動的学修に関する勉強会（2月20日16：30～18：30）」で、講師を担当した。ここでは、リーダー講座で学んできたことを学内に還元する目的で、自分が受講した時とほぼ同様の形式で先生方に体験して頂いた。 |
| 7. 第1回「能動的学修の教員研修リーダー講座」修了 | 2014年10月25日認定 | 全国大学実務教育協会主催の研修会（3回）に参加し、能動的学修の授業デザインや技法等を学んだ。これらは、事前・事後学修の効果的な方法などを含めて、自らも体験しながら修得する形式であった。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--|---------|--------------|---|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 考える道徳を創る 小学校 新モラルジレンマ教材と授業展開 | 共 | 2017年02月刊行 | 荒木紀幸編著 明治図書 | ガーベラの折り紙と題し、小学3～4年生対象の教材と授業展開などを執筆した（P.84～89）。道徳的な価値内容は、誠実・正直、思いやり、よりよく生きる喜びの3つであった。 |
| 2. 新・プリマーズ 保育の心理学 | 共 | 2013年4月10日刊行 | ミネルヴァ書房（河合優年・中野茂編著） | 保育士養成のための教科書として作成された。第7章（社会性の発達）と第9章（対人関係の成り立ちと道徳性）を執筆した。 |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 非道徳的行動における直感的な制御機能の検討 | 単 | 2009年3月 | 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 博士論文 | |
| 2. 映画やドラマにみられる子どもの表情—表示規則を中心として— | 単 | 2004年3月 | 神戸大学大学院 総合人間科学研究科 コミュニケーション学専攻 修士論文 | |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 児童生徒の心理的状态把握とその追跡の方法に関する研究—9大学連携協働研究「子どもみんなプロジェクト」の西宮市における取り組み— | 共 | 2017年03月 | 臨床教育学研究（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）第23巻，1-11. | 河合優年・高井弘弥・寺井朋子・佐々木恵・坂田智美・大和一哉・谷口麻衣・星川雅敏・加苅頼子・河合純孝 |
| 2. 学校現場における教師と生徒のより良い関係性について | 単 | 2016年03月 | 臨床教育学研究（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）第22巻，pp.79-87. | 研究ノート。平成26～27年度特別研究「学校現場における教師と生徒の良好な関係に必要な道徳的な直感に関する研究」の報告であった。研究は大きく①②から成っていた。研究①は教職志望の男女大学生に対するアンケート調査であり、研究②は現職の小中学校教員へのインタビュー調査であった。 |
| 3. 中学生の命の大切さに対する意識変容についての一考察—モンシロチョウの飼育や植物栽培を通して—（査読付き） | 共 | 2015年03月31日 | 道徳性発達実践研究（日本道徳性発達実践学会）第9巻第1号pp.38-43. | 関谷善行・寺井朋子 本研究は、中学校の現職理科教員と共同で行われた。ここでは、中学生が昆虫飼育や植物栽培をすることによって、命の大切さへの意識が変容するかどうかを調べた。中学2年生と3年生をクラスごとに、統制群・モンシロチョウ飼育・ミニトマト栽培・ベチュニア栽培を行い、事前事後の意識変容を質問紙調査により確認した。その結果、最も「いのち」の成長を感じられたはずのモンシロチョウ飼育群においてのみ命の大切さに関する得点が減少した。これは、卵から成虫へ成長する喜び以上に、中学生が負担を感じたためではないかと推測された。 さまざまな「いのち」に関する実践が行われているが、あるところで成功した事例がそのまま他で成功するとは限らず、年齢（小学生と中学生など）や状況（都会かどうか。虫や動物に慣れているかどうか |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 4. ある公立中学校におけるミュージカル創作に対する考察—学力に関わらず全員が輝ける場を目指して— (査読付き) | 共 | 2014年02月28日 | 道徳性発達研究 (日本道徳性発達実践学会) 第8巻第1号pp. 19-27. | など。) に適した方法の重要性が改めて明らかにされた。 寺井朋子・竹田敏彦 本研究では、「総合的な学習の時間」において長期的に地域と連携してなされたある公立中学校の1年生全員によるミュージカル創作が、特に学力の低い生徒に対してどのような影響を与えたのかを検討した。5月はミュージカルへの不安や意欲を尋ね、11月は公演終了時の達成感や創作中の気持ちについて尋ねる質問紙を用いた。学力に関しては、春に実施された業者テストの国語・社会・数学・理科の4教科の平均偏差値を算出し、40未満群・40～50群・50～60群・60以上群の4つの群を作成した。学力別に5月時点の意欲や11月時点の達成感の得点を調べたところ、どちらの時点でも40未満群が特に低いということはなく、むしろ学力が低い群の方が「最初からやる気があった」傾向がみられた。全体として、ミュージカル創作は40未満群も他の生徒と一緒に達成感を感じられた貴重な経験であったと推察された。 |
| 5. 保育士の支援に関する実践的取り組み—「保育士のための元気アップ勉強会」の内容と評価— (査読付き) | 共 | 2013年03月 | 臨床教育学研究 (武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科) 第19巻pp. 43-61 | 倉石哲也・寺井朋子・橋詰啓子 保育の現状や課題をふまえて、筆者らは保育士のための勉強会を実施した。企画段階では、保育士の興味などを調べる事前調査を行った。勉強会は当初予定されていた3回では希望者が全員受講できなかったため、4回実施した。その際に、参加者に対して属性や興味関心などを尋ねる質問紙調査への記入を依頼し、保育士が直面している課題などを分析した。 |
| 6. 社会人大学院生の大学院への期待と学びの環境 (査読付き) | 共 | 2012年03月 | 臨床教育学研究 (武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科) 第18巻pp. 21-30 | 橋詰啓子・寺井朋子 23人の大学院の学生に対して質問紙調査を行った。これらの23人は、夜間に開講している武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科在籍の、主として社会人学生で、年齢は22歳～61歳であった。分析の結果では、大学院への期待が高いほど人間関係の拡大や自分自身の変化を期待していることが示された。また、働きながら通学している大学院生は学業と職場と家庭の両立において複雑な課題を抱えていることも示唆された。 |
| 7. 女子大学生における大学入学動機と入学後の不安に関する考察 (査読付き) | 単 | 2012年03月 | 臨床教育学研究 (武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科) 第18巻pp. 31-37 | 本研究では大学生を対象として大学入学動機と入学後の不安に関する質問紙調査を行った。その結果、入学動機については教養的動機、雰囲気的動機、将来展望的動機の3因子が得られ、入学後の不安については、友人関係への不安、学業面への不安、学外環境への不安の3因子が得られた。将来展望動機の得点が高い学生の方が低い学生より、友人関係と学業に対して不安を感じていた。 |
| 8. 小学生児童と保護者における非道徳的行動に対する善悪判断とそれに影響する感覚的要因の検討 (査読付き) | 単 | 2010年 | 家庭教育研究所紀要 (小平記念日立教育振興財団日立家庭教育研究所) 第32巻2号pp. 83-91 | 小学3年生～6年生とその保護者に対して、非道徳的行動の判断に影響する要因を検討した。まず、非道徳的行動を分類した結果、「社会的不適切行動」と「人間的不適切行動」の2つに分かれた。そして、すべての学年の子どもと保護者が人間的不適切行動の方が悪いと判断していた。また、どちらの行動に対しても、厳格性が影響する傾向が強かった。 |
| 9. Relationships between Confidence and Morality in Elementary School Pupils | 単 | 2009年10月 | 武庫川女子大学臨床教育学研究科研究誌 第15巻pp. 193-197 | 小学生児童を対象とした調査において、「自分が努力すれば状況は変わる」と考えることができる児童 (LOC高群) の方が、適切な道徳的判断ができ、社会的な連帯感もより感じていることが明らかとなった。児童が自信をもって生活できるようにサポートすることが道徳性発達にも意味があることが示唆された。 |
| 10. ルールが明確ではない非道徳的行動の分類とその抑制要因 (査読付き) | 単 | 2009年03月 | 応用教育心理学研究 (日本応用教育心理学会) 第25巻2号pp. 3-11 | ルールや罰則が明確ではないが一般的に良くないとされている行動 (非道徳的行動) を抑制する要因について検討した。大学生を対象とした調査1と調査2より、「人として良くない行動」に対する不快感には男女共に社会的連帯感が影響しており、「社会的に良くない行動」に対する不快感には男性は他者視点と連帯感、女性は抑制力が影響を及ぼしていることが明らかとなった。 |
| 11. Haidtの社会的直観者モデルについての一考察—モデルが道徳性研究に与える影響とこれからの道徳性研究の方向性— (査読付き) | 単 | 2009年02月 | モラロジー研究 (財団法人モラロジー研究所) 第63巻 pp. 109-124 | Haidt (2001) が主張する社会的直観者モデルについて、その賛成論と反対論を概観した。このモデルが批判される理由は、「直観が善悪判断の前に生じる」だからであるが、道徳的行動や非道徳的行動においては論理的判断だけではなく感情も関わるという主張に対しては同意がなされていることを示した。また、Greeneら (2001) のfMRIを用いた道徳性研究や列車ジレンマの研究についても紹介し、今後の道徳性研究の方向性について考察した。 |
| 12. 明確なルールがない「良くない」行動における善悪判断と不快感 | 単 | 2006年08月 | 日本道徳性心理学研究 (日本道徳性心理学研 | 明確なルールはないが良くない行動について、善悪判断と不快感及び実際の行動の可能性の関係を女 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|---------------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| と実際の行動との関係（ピアレフ リー） | | | 究会） 第20巻pp. 7-15 | 子大学生への質問紙調査から検討した。その結果、「悪くも不快でもないが実際にはしない行動」が得られた。それは女性の身だしなみや年長者への態度など、日本の古典的なルールとも言えるものであった。 |
| 13. 子どもの表情表出と表示規則の獲得に関する研究について | 単 | 2004年 | 神戸大学国際文化学部 ・神戸大学総合人間科学 研究科鶴山論叢刊行 会発行、鶴山論叢 第4巻pp. 84-92 | 子どもの表情表出と表示規則に関する文献をレビューした。ここではまず、子どもの表情に関する研究方法が観察によるものと仮想場面を用いるものに大別されることを示した。両者の特徴をまとめた上で、子どもの表情に関する新たな研究方法として映画やビデオなどの表情を用いる研究の可能性について論じた。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. Short-term Longitudinal Study in Japanese Elementary and Junior High Schools Regarding School Adaptation -Is There Any Sign before Being Maladjusted?- | 共 | 2016年11月06日 | Proceeding and Abstracts of the 28th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), Presentation 16, p. 41, Ehime University (Japan) | Terai Tomoko, Takai Hiromi, Vincent C. Alfonso, John Traynor, Jon Sunderland, Kawai Masatoshi 愛媛大学にて口頭発表を行った。 |
| 2. 中学生の学校適応と認知力・安心感の関係-Q-Uの得点をもとに | 単 | 2016年10月08日 | 日本教育心理学会第58回総会 ポスター-PC73 | 香川大学にて、ポスター発表を行った。 |
| 3. 施設長が求める保育士の資質 | 共 | 2016年05月07日 | 日本保育学会 ポスター発表 ID22046 | 橋詰啓子・寺井朋子・石川道子 東京学芸大学にて、ポスター発表を行った。 |
| 4. Short Term Longitudinal Study of Changing Patterns of Self-Reported Bullying/Approval Score of Children from Elementary to Middle School: | 共 | 2015年09月15日 | Proceeding and Abstracts of the 27th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), Presentation 3, p. 23, University of West Florida (America) | Terai Tomoko, Takai Hiromi, Vincent C. Alfonso, Jon Sunderland, John Traynor, Kawai Masatoshi University of West Floridaにて口頭発表を行った。 |
| 5. 学校から中学校への移行期における学級内での児童・生徒の関係性の変化 - Q-Uを用いたクラス内関係性の分析 - | 共 | 2015年08月26日 | 日本教育心理学会第57回総会 発表論文集P. 195 ポスター-PB003 | 河合優年・寺井朋子・高井弘弥 ポスター発表を行った。 |
| 6. 発達障害事例の親子による後方視的語りの検討 | 共 | 2015年07月04日 | 日本発達障害学会 ポスター | 石川道子・橋詰啓子・寺井朋子 |
| 7. 専門職としての保育士に関する研究② 保育士の倫理観 | 共 | 2015年05月09日 | 第68回日本保育学会 ポスター 発表ID20114 | 寺井朋子・橋詰啓子・石川道子・倉石哲也 椋山女学院大学（名古屋）にてポスター発表を行った。 |
| 8. 専門職としての保育士に関する研究① 保育士の職務満足度 | 共 | 2015年05月09日 | 第68回日本保育学会 ポスター 発表ID21003 | 橋詰啓子・寺井朋子・倉石哲也・石川道子 椋山女学院学園（名古屋）にてポスター発表を行った。 |
| 9. 障害児保育に対する保育士の困難感に関する研究 | 共 | 2014年11月 | 日本教育心理学会第56回大会 ポスター-PB050 | 寺井朋子・橋詰啓子・倉石哲也・石川道子 神戸大学（神戸国際会議場）にてポスター発表を行った。 |
| 10. A Cross Cultural Comparison of Japanese and American Elementary and Middle-School Children's Attitudes and Behaviors toward Academic and Social Issues 2 -From the Results of Japanese Students' Short Term Longitudinal study- | 共 | 2014年09月19日 | Proceeding and Abstracts of the 26th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), Presentation1, p. 22, Tokyo Gakugei University (Japan) | Kawai Masatoshi, Jon Sunderland, John Traynor, Takai Hiromi, Terai Tomoko 昨年に引き続き、武庫川女子大学とゴンザガ大学の共同研究の最初の発表として、それぞれの現状報告を行った。日本の結果として、小学1年生から中学3年生まで2年間4回分の縦断的データの分析結果について、口頭発表（10:00~10:30）を行った。 |
| 11. ある公立中学校におけるミュージカル創作に対する考察 | 共 | 2014年08月17日 | 第14回SAME (School and Moral Education: 学校と道徳教育) 研究会 | 寺井朋子・林明弘 (演出家・脚本家)・竹田敏彦 (広島国際大学) 広島大学 (広島) にて、口頭発表 (15:00~15:40) を行った。 |
| 12. ミュージカル創作への生徒の達成感と学力の関係-ある公立中学校の挑戦- | 共 | 2013年12月 | 日本道徳性発達実践学会第13回香川大会 (第31回道徳性発達研究会) | 寺井朋子・竹田敏彦 日本道徳性発達実践学会 (香川大学) において口頭発表を行った。 |
| 13. 中学生における日常生活の安定感と善悪判断の関係 | 単 | 2013年08月 | 日本教育心理学会第55回大会 ポスター-PC-090 | 法政大学 (東京) にて、ポスター発表を行った。 |
| 14. A comparison of Japanese and American elementary and middle school students' perceptions of academic and social issues. | 共 | 2013年06月 | 37th Annual Pacific Consortium Conference: Sharing Perspective - International Conversations about Educat | Jon Sunderland, Kawai Masatoshi, John Traynor, Takai Hiromi, & Terai Tomoko Hawaii's Imin International Conference Center: University of Hawaii 'i at Manoaにて、口頭発表を行った。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 15. A Cross Cultural Comparison of Japanese and American Elementary and Middle-School Children's Attitudes and Behaviors Toward Academic and Social Issues . | 共 | 2013年05月31日 | ion: Recurrings Themes in PCC. Proceeding and Abstracts of the 25th Japan-U.S. Teacher Education Consortium(JUSTEC), Presentation10, p.21, University of Puget Sound(United States) | Kawai Masatoshi, John Traynor, Takai Hiromi, Terai Tomoko, Jon Sunderland 武庫川女子大学とゴンザガ大学の共同研究の最初の発表として、それぞれの現状報告を行った。武庫川女子大学からの報告では、西宮市で行われている小中学生へのQ-U調査について、小学1年生から中学3年生までの承認と被侵害得点の変化について口頭発表(15:15~15:45)を行った。 |
| 16. 道徳的アイデンティティと非道徳的行動に対する善悪判断の関係 | 共 | 2013年05月 | 日本感情心理学会第21回大会 | 寺井朋子・高井弘弥 ポスターP04, 東北大学(宮城)にてポスター発表を行った。 |
| 17. 善悪判断における直感の役割に関する予備的研究 | 単 | 2012年09月 | 日本心理学会第76回大会 | 専修大学(東京)にて、ポスター発表を行った。 |
| 18. 子どもの学習・生活態度と保護者の関わり方—子どもに厳しい親は自分にも厳格であるのか— | 共 | 2012年03月 | 日本発達心理学会第23回大会発表論文集, ポスターP2-23, | 寺井朋子・税所涼子 名古屋大学(愛知)にて、ポスター発表を行った。 |
| 19. 小学生に身近な非道徳的行動における善悪判断—横断的検討と縦断的検討— | 単 | 2011年10月 | 日本こども学会第8回大会 | 武庫川女子大学(兵庫)にて、ポスター発表を行った。 |
| 20. 日常的な非道徳的行動に対する児童と保護者の善悪判断—保護者との関係に注目して— | 単 | 2011年07月 | 日本道徳性発達実践学会第11回神戸親和大会(第28回道徳性発達研究会) | 日本道徳性発達実践学会(神戸親和女子大学)にて、口頭発表を行った。 |
| 21. 日常的な非道徳的行動に対する善悪判断の分類—小学生児童とその保護者に対する質問紙調査より— | 単 | 2011年03月 | 日本発達心理学会第22回大会, ポスターP1-052 | 東京学芸大学(東京)にて、ポスター発表を行った。 |
| 22. 道徳性発達の最前線を知る—Part 3 | 共 | 2011年03月 | 日本発達心理学会第22回大会, ラウンドテーブルRT2-1 | 企画:「道徳性・向社会性」分科会, 司会・話題提供者:二宮克美(愛知学院大学, 話題提供者:長谷川真理(横浜市立大学) 寺井朋子(武庫川女子大学) 越中康治(宮城教育大学) |
| 23. 小学生の規範意識に関する研究—同一小学校における2年前との比較— | 単 | 2010年09月 | 日本心理学会第75回大会 | 大阪大学(大阪)にて、ポスター発表を行った。 |
| 24. 小学生における非道徳的行動の善悪判断に影響する要因の検討 | 共 | 2010年03月 | 日本発達心理学会第21回大会 | 神戸国際会議場(神戸)にて、ポスター発表を行った。 |
| 25. 小学生における非道徳的行動に対する善悪判断と日常生活意識との関係 | 単 | 2009年09月 | 日本教育心理学会第51回大会 | 静岡大学(静岡)にて、ポスター発表を行った。 |
| 26. 小学生における自己への自信と道徳的判断の関係 | 単 | 2009年08月 | 日本心理学会第74回大会 | 立命館大学(京都)にて、ポスター発表を行った。 |
| 27. 非道徳的行動に対する善悪判断と実行可能性との関係—小学生に対する調査より— | 単 | 2009年03月 | 日本発達心理学会第20回大会 | 日本女子大学(東京)にて、ポスター発表を行った。 |
| 28. 幼稚園における食育のあり方に関する研究-IV | 共 | 2008年10月 | 教育心理学会第50回大会, ポスターPA1-13 | 西元直美・河合優年・寺井朋子・山本正顕・杉本五十洋・永迫千代乃 東京学芸大学(東京)にて、ポスター発表を行った。 |
| 29. 非道徳的行動に対する直感的な制御について—自罰的傾向からの検討— | 単 | 2008年03月 | 日本発達心理学会第19回大会 | 追手門学院大学(大阪)にて、ポスター発表を行った。 |
| 30. ルールが明確ではない「非道徳的行動」に対する不快感について—小学生に対する調査から— | 単 | 2007年09月 | 日本教育心理学会第49回大会 | 文教大学(埼玉)にて、ポスター発表を行った。 |
| 31. 慣習的な行動違反をした時の不快感と他者感情の捉え方と社会的連帯感の関係—小学2・4・6年生への調査より— | 単 | 2007年08月 | 道徳性発達実践学会 | 神戸親和女子大学(神戸)にて、口頭発表を行った。 |
| 32. 「道徳的行動」の生成機序の解明—行動を抑制する要因から— | 単 | 2007年03月 | 日本発達心理学会第18回大会, ポスターPB142 | 埼玉大学(埼玉)にて、ポスター発表を行った。 |
| 33. ルールはないが良くないとされる事柄に対する大学生の意識 | 単 | 2006年03月 | 日本発達心理学会第17回大会, ポスターPA054 | 九州大学(福岡)にて、ポスター発表を行った。 |
| 34. 日本人の表情に関する研究—映画とドラマにみられる小・中学生の表情と表示規則— | 共 | 2004年09月 | 日本心理学会第68回大会, ポスター1AM069 | 寺井朋子・米谷淳 関西大学(大阪)にて、ポスター発表を行った。 |
| 35. Display rules of children observed in Japanese TV dramas and movies. | 共 | 2004年08月 | 28th International Congress of Psychology(ICP2004) No. 4028.26 in Beijing, China. | Terai, T. & Maiya, K. 国際心理学会(北京)にて、ポスター発表を行った。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|---------------|--------------------------------|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 36. 子どもの表情と表示規則—映画とドラマを用いた母親へのインタビューをもとに— | 共 | 2004年05月 | 日本感情心理学会第12回大会 | 寺井朋子・米谷淳 同志社大学にて口頭発表を行った。 |
| 37. 映画とドラマに見られる子どもの表情 | 単 | 2003年12月 | 神戸大学国際文化学会 | 神戸大学国際文化学会（神戸大学）にて、口頭発表を行った。 |
| 38. 日本人の表情に関する研究—テレビでみられる子どもの表情— | 共 | 2003年09月 | 日本心理学会第67回大会、ポスター1PM043, | 寺井朋子・米谷淳 東京大学（東京）にて、ポスター発表を行った。 |
| 39. 映画「小さな恋のメロディ」における子どもの表情 | 共 | 2003年09月 | 日本社会心理学会第44回大会発表論文集、ポスターP-1-22 | 寺井朋子・米谷淳 東洋大学（東京）にて、ポスター発表を行った。 |
| 40. 日本人の表情に関する研究—「中学生日記」にみられる表情の分析— | 共 | 2003年08月 | 日本感情心理学会第11回大会 | 寺井朋子・米谷淳 聖心女子大学（東京）にて口頭発表を行った。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 中学生における日常生活満足度と善悪判断に関する短期縦断的研究 | 単 | 2013年7月20日 | 人間発達・教育研究会 | 神戸市立総合福祉センターにて、スピーカーとなった。 |
| 2. 道徳性における感覚的側面について | 単 | 2009年10月 | 道徳性発達研究会 | 神戸親和女子大学（神戸）にて、スピーカーとなった。 |
| 3. 道徳性に対する感覚的側面からのアプローチ—大学生を対象とした予備的調査より— | 単 | 2006年11月 | 道徳性発達研究会 | 神戸親和女子大学（神戸）にて、スピーカーとなった。 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 基盤研究(C) 道徳的直感が判断に及ぼす影響と学校適応に関する日米比較研究 | 単 | 2015年04月 | 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費助成事業（科研費） | |
| 2. 道徳的判断における直感的な処理プロセスに関する研究 | 単 | 2011年7月採択 | 平成23年度 武庫川女子大学 科学研究費補助金学内奨励金 | 本研究は、非道徳的行動の制御要因として、従来研究されてきた「判断」と新しい概念である「感覚」を仮定し、これらの役割を明らかにしようとするものである。ここでは、科研費審査結果をもとにして研究を段階的に行うこととした。そのため、非道徳的行動と仮説的な2つの制御要因の関係のみ検討するとして申請した。採択後の質問紙調査の結果は、手続きに従って、学内科研報告書にて報告を行った。 |
| 3. 非道徳的行動の制御における感覚的要因とその年齢的变化の検討 | 単 | 2009年7月採択 | 財団法人 小平記念日立教育振興財団 日立家庭教育研究所 | 近年問題となっているモラルの低下を防ぐには、学校教育だけではなく家庭と学校の連携が必要である。ここでは、小学生2年生～6年生の児童とその保護者に質問紙調査を行い、児童の非道徳的行動への意識と保護者のしつけ観などを調べるという内容で申請した。採択後の研究内容については、家庭教育研究所紀要に投稿し、報告を行っている。 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|-----|---|
| | 日本心理学会 日本教育心理学会 日本道徳性発達実践学会 日本感情心理学会 日本応用教育心理学会 日本発達心理学会 |